

## 週明けの米国株式市場の下落について

- 週明け24日、新型コロナウイルス問題の影響で、世界景気減速が避けられないとの見方が再び強まりました。
- 事態の早期収束を期待しますが、世界のサプライチェーンにも影響が出始めているため、海外でビジネス展開をする大型企業の方が、米国内向けにビジネス展開をする中小型企业より相対的に悪影響を受けやすいとみています。

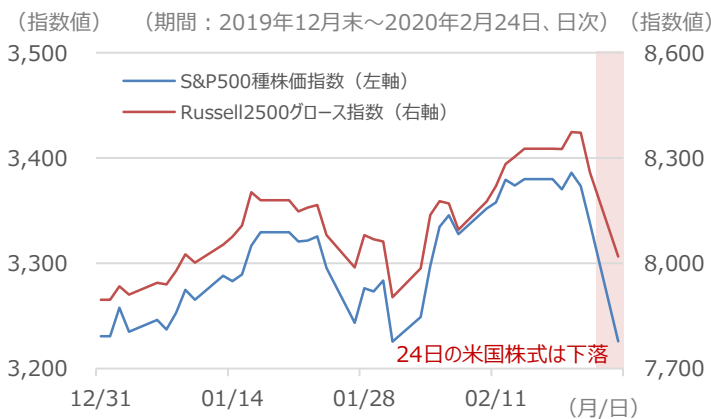
### 週明けのNY市場は大きく下落

- 週明け24日の米国株式市場は、新型コロナウイルスの感染拡大による世界経済への影響懸念から、大型株式で構成されるS&P500種株価指数が先週末21日比で3.4%の下落、中小型成長株式で構成されるRussell2500グロース指数は2.9%の下落となりました。S&P500種株価指数の下落率は、2018年2月以来過去3番目の大きさとなっています。
- 韓国やイタリアでも感染拡大が報じられたことで、世界のサプライチェーンへの悪影響は避けられず、世界経済の減速懸念が強まりました。短期的には世界的な株安、リスクオフの流れとなる可能性があり、今後の動向を注視する必要があります。

### 今後の見通し

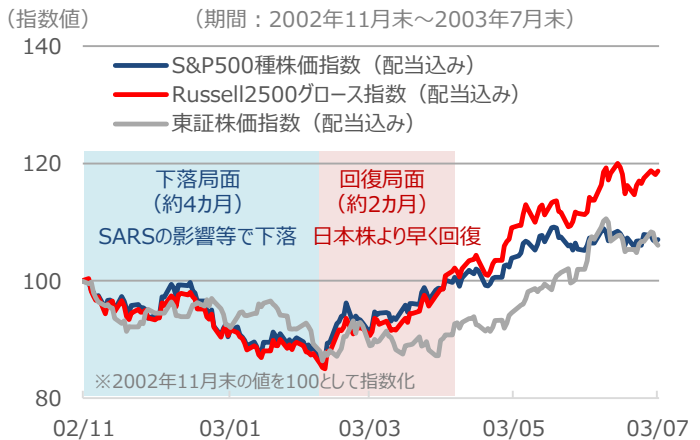
- 新型コロナウイルスの急速な感染拡大は、世界経済（米国経済）にとっても短期的にはマイナス要因となっています。ただし、3ヵ月程度の短い期間で収束すれば、株式市場への影響が軽微なものになる可能性はあると考えます。
- 米国中小型株式は、米国内でのビジネスを中心とする内需企業が多く、2002年11月から2003年にかけて流行したSARSのケースと同様に、大型企業よりも影響は軽微で、株価回復も早い可能性があるとみています。
- SARSの際には、約4ヵ月間でS&P500種株価指数は最大で▲14.2%、Russell2500グロース指数も最大で▲15.5%下落しましたが、約2ヵ月程で下落前の水準を回復しました（日本株より早い回復でした）。

#### 2020年初来の株価指数の推移



出所：Factsetデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成

#### SARS流行時の株価指数の推移



出所：Factsetデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成

※当資料の内容は、過去の実績および作成時点でのアライアンスパートナーおよび弊社の見解等であり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。